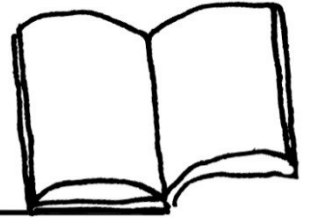


敬 和

R2.4.8 発行



新しい学年がスタートしました。新しい出会いに期待と不安で胸いっぱいになっていると思います。そして、新しい教科書が配られたと思います。突然ですが、下の図の袋を覚えていますか？小学校1年生の時、教科書と一緒に配られました。

その袋の裏には文部科学省からのメッセージが書かれています。



当たり前のように配られる教科書ですが、1963年（今から57年前）まではお金を出して教科書を買っていました。

今から50数年前…

教科書は毎年、新学期を迎える前に各家庭でそろえることになっていました。古い教科書をゆずってもらったり、古くて使えないものやないものだけを買ってそろえたり、3月になると母親たちは苦労していました。新しい教科書を全部そろえると小学校でも約700円、中学校で1200円ほどかかりました。女の人が1日働いても300円ほどの収入しかなかったので、子どもの数が今に比べて多かったその当時は、教科書をそろえるだけでも大変な出費でした。

なぜ、今は無償で配られているのだろう…

新しい教科書をもたせてやりたい！



学校で勉強して安定した仕事や好きな仕事についてほしい。

親（大人）の強い思い

そこで、お母さんたちは勉強会を始めました。その中で、日本国憲法のある条文を見つけました。

憲法26条第二項

すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負う。義務教育はこれを無償とする。

親たちは“教科書をタダにする会”を結成し、運動を進めていきました。理解してもらえないこともありましたが、根強く運動を進め、たくさんの人々や団体・政党に支持され、全国的な運動に発展し、国会で大きな問題として取り上げられました。そしてついに…



1963年3月「義務教育諸学校の教科用図書は無償に関する法律」が成立し、次の年から教科書が無償で配られることになりました。

<教科書の袋の裏に書かれたメッセージ>

保護者の皆様へ

お子様の御入学おめでとうございます。

この教科書は、義務教育の児童・生徒に対し、国が無償で配布しているものです。

この教科書の無償給与制度は、憲法に掲げる義務教育無償の精神をより広く実現するものとして、次代をになう子どもたちに対し、我が国の繁栄と福祉に貢献してほしいという国民全体の願いをこめて、その負担によって実施されております。

一年生として初めて教科書を手にする機会に、この制度にこめられた意義と願いをお子様にお伝えになり、教科書を大切に使うよう御指導いただければ幸いです。

文部科学省



今みなさんが手にしている教科書は「すべての子どもに勉強させてやりたい」と強く願う人々の思いと行動から無償で支給されることとなりました。
たくさんの方の思いが詰まった教科書を大切に使いましょう。